

2019年度「市民総参加訓練」を実施 ～あの大震災を決して忘れず、生かし、備える～

1925（大正14）年の北但大震災の記憶を風化させることなく、防災・減災対策に生かすとともに、市民の防災意識の高揚を図る市民総参加訓練を実施する。この訓練は、2015年度から毎年実施しており、今年で5回目である。

1 日時

2019年8月25日（日） 午前8時～9時

2 場所

各家庭、区内の避難場所等

3 訓練の概要

(1) 想定

- ア 北但馬地域を中心に震度6強の大地震が発生した。
- イ 市内全域で多数の家屋が倒壊するとともに火災も発生。
- ウ 海岸付近では津波の恐れもある。

(2) 対象

全ての地区（区民）

※ なお、都合により当日実施しない地区もある。

※ 学校を通じて、市内の全ての小・中学生に対し訓練への参加を促している。

(3) 内容

ア 安全確保行動訓練

防災行政無線を合図に、各家庭等で安全確保行動訓練を行う。

安全確保行動	
 DROP! まず低く	上からの落下物を避けられる場所で低い姿勢をとる。
 COVER! 頭を守り	落下物や飛来物から頭を守れるよう、机の下への避難や腕で頭を守る。
 HOLD ON! 動かない	1分間はじっと動かない（机が揺れて飛ばされないように、しっかり机の脚を持ち固定する）。

イ 津波避難訓練（沿岸部）

津波の恐れがある沿岸部の住民は、安全確保行動後、津波避難場所へ避難する。

港地区	： 小島、瀬戸、津居山、気比、田結
竹野地区	： 宇日、田久日、駅前、東町、中町、馬場町、上町、下町、西町、切濱、濱須井

ウ 安否確認訓練（沿岸部以外）

沿岸部以外の住民は、安全確保行動後、いっとき避難場所^(※1)に集合し隣近所の安否確認を行う。「人的被害がない場合は、玄関先にタオルをぶら下げる」など地区のルールも決めておく。

(※1) いっとき避難場所

隣保程度で集まれる事前に決めた身近で安全な場所

エ 情報伝達訓練

地区の自主防災組織は、訓練の参加人数を市役所に報告する。

4 その他の地域の独自訓練（予定）

(1) 地域コミュニティ

ア コミュニティなかすじ

市民総参加訓練後、中筋小学校で、昨年作成したマニュアルに基づいた避難所の開設・運営訓練を行う。

イ コミュニティ城崎

8月30日(金)午前9時から12時まで城崎小学校で、スタンプラリー方式で防災を楽しく学ぶ。自衛隊豊岡出張所、豊岡市消防本部城崎分署・防災課・城崎振興局、コミュニティ城崎が、防災車両の展示や写真パネルの展示、防災ゲーム、新聞スリッパの作成などを行う。

ウ 桜・清流の郷きよたき

市民総参加訓練後、清滝地区コミュニティセンターで、防災イベントとして、施設火災避難訓練、消火訓練、日本赤十字社兵庫支部の防災セミナー、日赤奉仕団清滝支部による炊出し、過去の災害写真展示などを行う。

(2) 地区

ア 小島区

津波避難訓練後、小島区会館で、自主防災の災害対策本部の設置訓練、リヤカーによる要援護者の救出訓練、バケツリレーによる消火訓練、備蓄非常食による炊き出し訓練を行う。インドネシア人技能実習生も参加予定である。

イ 出石町寺町区

けが人役を車いすや担架に乗せて、中学生と大人の組み合わせで訓練を行う。

5 主催

豊岡市

《参考》

1 昨年度(2018年度)の訓練参加状況

(1) 市民総参加訓練

- ア 実施日 8月26日(日)
- イ 参加者 29,542人
- ウ 区の参加率 81%

地 域	行政区	参加区	参加率
豊 岡	118 区	95 区	80.5%
城 崎	31 区	13 区	41.9%
竹 野	31 区	30 区	96.8%
日 高	70 区	57 区	81.4%
出 石	51 区	43 区	84.3%
但 東	42 区	40 区	95.2%
合 計	343 区	278 区	81.0%

(2) 津波避難訓練

- ア 実施日 9月2日(日)
(※ 兵庫県但馬地域合同防災訓練に合わせて実施)
- イ 参加者 4,746人
- ウ 区の参加率 100%

地 区	行政区	参加区	参加率
港	5 区	5 区	100.0%
竹 野	11 区	11 区	100.0%
合 計	16 区	16 区	100.0%

〔問合せ〕 豊岡市政策調整部防災課 TEL0796-23-1111 (内線 2191)